

第3回教育コンテンツ作成 WG 議事録（確定）

日 時 : 令和5年9月19日(火) 10:00~12:00
形 式 : Zoom 会議
場 所 : 日本薬学会長井記念館 薬学教育協議会事務局 (ホスト会場)
出席者 : 別記1
配布資料 : 別記2

WG の開催に先立ち、本間代表理事より、先日 9.11 (月) に e-learning コンテンツ作成の Kick off Meeting において、これからのスケジュールと内容について、業者より説明があったことの報告が行われた。また、この委託調査研究は「総合的に患者・生活者を見る姿勢」と「情報・科学技術を活かす能力」の二つの資質能力について教育用のコンテンツを作成することが目的であること。二つの資質であるので、それぞれで WG を立ち上げ作業を進めることとした(①情報・科学技術を活かす能力は、文部科学省に確認もしたが、e-learning コンテンツを作成するため、業者に依頼することとした。②一方、総合的に患者・生活者を見る姿勢は、必ずしも e-learning でなくてもよいという結論に至った。)。

Kick off Meeting のご案内は、e-learning はメリットもあり、この WG においても e-learning コンテンツを作る要望があれば、乗っかることができると判断した。しかし、スケジュールからはとてもタイトでもあり、ご出席いただいた有田委員、川名委員には初めての情報が多く誤解をさせたと反省している。e-learning にしていただきたいということではなく、もし良ければ e-learning に乗っかるということである等の説明がなされ、今までの方針で進めていただき何も問題はないことを言及されるとともに謝意が述べられた。

1. e-learning について (e-learning 具体例の紹介)

(株)カビネットより、e-learning コンテンツは、ユーチューブの再生とは異なること。本協議会が小テストも視野に入れていることで e-learning コンテンツが妥当だと判断したことの説明があった。

続いて、e-learning コンテンツがどのようになるかという、簡単なデモンストレーションとして、4 点の e-learning コンテンツのサンプルの特徴的な部分を視聴した。

- アプリケーションソフトの操作方法を学ぶことができるチュートリアル教材

実際のアプリケーションソフトを操作しているところを視聴することで、基本的な操作方法を学ぶことができる教材で、ソフトウェアの音声で作ったナレーションも入っている。

- ページ内に動画があり、説明文書を時間差で 1 行ずつ効果的に表示するアニメーション機能を使った教材 (ナレーションは無し)

動画と文書を 1 ページ内に配置することができる。文書は時間差で表示することもでき、始めから表示することも可能である。動画は受講者の好みで拡大したり、巻き戻し再生等自由にできる。

○受講者が視聴するだけではなく、クイズ形式のテストに回答しながらページを進める教材

ページ内にクイズがあり、受講者が回答することで次のページに進めるような参加型の教材を作ることがe-learningでは可能である。これは、間違えると次には進めず、正解すると次へのボタンが表示される。(文字を時間差で表示することも始めから表示することも可能である。)

○指導テスト形式の教材

問題文の他に画像をいれることも可能である。回答方式は複数あり、設問に対して選択肢の中から一つ選択をするもの、複数選択することも可能である。また、プルダウンの中から選択することも、フリー入力により記入して回答することも可能である。最後に小テストの採点結果を表示することも可能となる。こちらも受講者が視聴するだけではなく、参加するによって教材を進めることができるというユーチューブには無い e-learning ならではの機能で一つの特徴である。○株カビネットより、補足説明として、9.11 のキックオフミーティングの席上で、教材作成にあたってどの様な原稿を入れたら良いのかという質問があった。今回、視聴していただいた一部はパワーポイントの原稿で e-learning 教材にしているように、完全原稿による提示することは、タイトな現状でもあるので、word 文書でも、テキスト文書でも、このような文書を載せたいと早めに提示いただければ、その素材により出来上がりイメージを確認できる。ご相談いただきたい等のことであった。

視聴後による主な意見の提示

- ・受講内容を理解できているかを確認しながら進めることができる。
- ・完全原稿でなくてもよいということか。
- ・Word 文書を原稿とするイメージが持てない。統一的になるのかどうか。
- ・動画、イラスト、写真を入れると効果的と考えるが用意する時間が大変ではないか。
- ・イラスト作成はサポートいただけるのか。
- ・ライセンスに問題の無いフリーのイラストを使えば統一的に示せるのか。
- ・受講後のデータだが、例えば、設問の〇〇番の正解はどの受講者かの紐づけはできるか。
- ・データのアウトプットは提示していただけるのか。
- ・これは、文科省に事業なので報告は必要なので、データは CSV 形式等で提示していただけるのか。
- ・コンテンツでスライド説明を自動音声だが、教員の肉声で収録は可能か
- ・昭和大の動画を載せることは可能か。
- ・手洗いに動画を視聴させていただいたが制限はどの位か。
- ・場面、場面の状況により動画を切って、e-learning にする考えか。
- ・1 タイトル 10 頁だがページ内に 1 点の動画を入れることは可能ということか。
- ・1 動画は 10 分以内ということか。
- ・素材の提供期限は、10 月 13 日が最後となっているがどうか。
- ・3 月末に報告しなければならないか。

- ・次年度もこの事業を継続させる必要があるのではないか。
- ・今後は、使用料の徴収が必要となるのではないか。

○本間代表理事よりこの事業は継続が必要な事柄であると認識しており、教育協議会マターとしてこの事業を継続させるための検討を進める方向であるとの発言がなされた。

2. コンテンツ作成に向けた委員からのご意見

亀井委員長より、現在、e-learning 教材を作成するとは決めてはいない。前回は昭和大学のシチュエーションベースドトレーニングの教材を総合的に患者・生活者を見る姿勢という教材の例として検討し議論を進めてきた。学生の授業にも利用でき、各大学もアレンジして利用できるということに繋がる教材として、昭和大学で作成した教材をアレンジした形が良いのではと考えている。また、その他では、地域活動、災害医療等いろいろな事柄に繋がる教材についても参考になるものがあればサブとして纏められれば良いとも考えている。

教員に知っていただくこととして「総合的に患者・生活者をみる姿勢」とはということかを伝える教材として、教員が分っていなければ学生に伝わらない。教員と学生の共通ではなく、教員にこういう姿勢で関わって欲しいというメッセージとしたいとの発言があり、三つのコンテンツの作成につて提案がなされた。

- 1.患者さんのライフステージを薬剤師として認識できるコンテンツ
- 2.倫理観やプロフェッショナリズムを伝える肉声による動画コンテンツ
- 3.教員の授業準備（教育前）は、どのようなことをするかというコンテンツ

提案後の主な意見の提示

- ・e-learning ベースというよりは動画で教員向けが相応しいのではないかな。
- ・倫理観の醸成、医療人教育が大事ではないかな。
- ・医療の変化を感じながら、どういう倫理観を持つべきか認識できる早期体験実習はどうか。
- ・多職種との連携の中で薬剤師の役割をどう認識させられるかが必要ではないかな。
- ・バラバラになることは避けた方がよいのではないかな。
- ・総合的に患者・生活者をみるという学修目標に対して授業計画を作るようなことはどうか。
- ・全体一気に作ることは無理なので、第一弾、第二弾のように分けて作ることはいかがかな。
- ・資質に紐づけることが大事なのではないかな。また、継続性ある内容とすべきではないかな。
- ・プロフェッショナリズム、倫理観、人生を見ることができれば良いと考えるがいかがかな。
- ・薬学の倫理教育が不明瞭であるとの意見がある。目的と教育手法をしっかりとしたいがどうか。
- ・資質の中心となるような目標を幾つか掲げることはどうか。
- ・ライフステージ、個別性、多様性、多職種連携をキーワードで目標を立てるがどうか。
- ・B 社会と薬学を理解できなければだめではないかな。
- ・再度、この教育コンテンツで B 社会と薬学を伝えたいがどうか。
- ・B の重要性については違和感はないのではないかな。

- ・コアカりに基づいた言葉が相応しいと考えるがいかがか。
- ・昭和大学の動画を切り取って使用することも可能ではないか。

○ここで、亀井委員長より昭和大学作成の動画を視聴することの提案があり、高齢者の思いに焦点を当てたシナリオ（エピソード1、エピソード2、エピソード3）を視聴することとなった。

視聴後の主な意見の提示1：4 1

- ・三番目は、多職種の役割を考える内容になっているのではないか。
- ・長男の嫁が介護する印象も出るのではないか。
- ・教材の使い方で不安が生じるのではないか。
- ・自由にデスクッションすべきではないか。
- ・第二弾は過渡期の内容が含まれ、いろいろと有効な使い方があるのではないか。
- ・各観点で考えることができる。使い方のヒントを提示すべきではないか。
- ・第三弾は今後の事前学習でFに繋がる内容ではないか。
- ・Bのキーワードを網羅出来ているのではないか。知識の繋がりを感ずる。
- ・教材の活用法を示すべきではないか。
- ・動画の編集は大変ではないか。
- ・観点を明確にする。学修目標、教
- ・教材として活用が素晴らしいのではないか。
- ・薬学的な観点での繋がりを作成することはどうか。
- ・第三弾の後に現状から問題提起のシナリオを用意することは有効ではないか。

○亀井委員長よりこの教材を基にどういう視点での学修ができるのかをできるだけ早く検討したい旨の発言があり、了承された。

特に、次回の本WG開催日前までに実施するため、日時と場所等を調整し動画の活用法を検討することとなった。

3. その他

次回、第4回教育コンテンツ作成WGの開催は10月31日（火）10：00～12：00でハイブリッド形式での会議予定である。

別記 1

教育コンテンツ作成ワーキンググループ第3回（9月19日開催）

構成員氏名	所 属	出欠席	備 考 欄
亀 井 美和子	帝京平成大学薬学部	Web	
有 田 悦 子	北里大学薬学部医療心理学部門	Web	
亀 井 大 輔	昭和大学薬学部薬学教育講座	Web	
川 名 三知代	ココカラファイン薬局砵店	Web	
岸 本 桂 子	昭和大学薬学部社会健康薬学講座	Web	
篠 原 久仁子	恵比寿ファーマシー	Web	
本 間 浩	一般社団法人薬学教育協議会	Web	
オブザーバー	文部科学省高等教育局医学教育課		

別記 2 教育コンテンツ作成ワーキンググループ第 3 回（9 月 19 日開催）

<配付資料>

資料 1 - 1 薬学教育協議会 H P 上の見積合わせ公告